2 受療率

全国の受療率は、入院 1,145、外来 5,551 である。これは調査日に人口の約 1.1%が入院し、約 5.6%が外来を受診していることを示している。

(1)性・年齢階級別

性別にみると、入院では男が 1,080、女が 1,206 となっており、 外来では男が 4,815、女 が 6,252 となっている。

年齢階級別にみると、入院では $10\sim14$ 歳が最も低く、年齢階級が高くなるに従って高くなり、90 歳以上で最も高くなっている。外来では $15\sim19$ 歳が最も低く、 $75\sim79$ 歳が最も高くなっている。

性・年齢階級別にみると、入院では、20~34 歳及び80歳以上の年齢階級で女が男より高く、外来では、14歳以下の年齢階級及び85歳以上の年齢階級で男が女より高い。(表9)

表9 性・年齢階級別にみた受療率(人口10万対)

平成17年10月

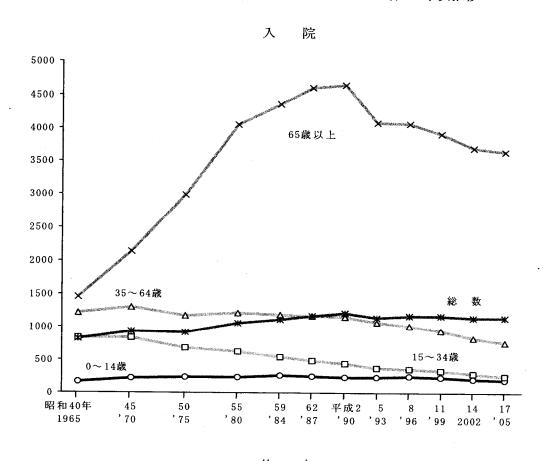
	7		院	<u> </u>			
	総数	男	女	総数	男	女	
総 数 0 歳 1 ~ 4	1 145 (1 139) 1 039 201	1 080 (1 078) 1 056 237	1 206 (1 197) 1 022 164	5 551 (5 083) 6 276 6 477	4 815 (4 393) 6 744 6 723	6 252 (5 743) 5 787 6 220	
$ \begin{vmatrix} 5 & \sim & 9 \\ 10 & \sim & 14 \\ 15 & \sim & 19 \\ 20 & \sim & 24 \\ 25 & \sim & 29 \\ 30 & \sim & 34 \end{vmatrix} $	113 110 133 212 298 345	131 119 144 186 232 288	95 99 121 239 365 404	4 030 2 390 1 909 2 315 2 706 2 918	4 228 2 502 1 765 1 751 1 989 2 134	3 822 2 271 2 060 2 906 3 446 3 722	
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	375 436 570 807 1 036	381 497 665 966 1 254	368 374 475 649 822 1 070	3 123 3 517 3 669 4 486 5 535 7 383	2 488 2 897 3 148 3 829 4 913 6 566	3 768 4 147 4 193 5 140 6 146 8 158	
60 ~ 64 65 ~ 69 70 ~ 74 75 ~ 79 80 ~ 84 85 ~ 89 90 歳以上	1 344 1 772 2 501 3 521 5 185 7 844 12 000	1 633 2 098 2 874 3 860 5 115 7 188 10 462	1 070 1 475 2 185 3 266 5 225 8 125 12 480	9 370 12 846 14 060 13 664 11 693 8 879	8 558 11 885 13 456 13 560 12 295 10 246	10 112 13 659 14 515 13 723 11 435 8 453	
(再 掲) 65 歳以上 70 歳以上 75 歳以上	3 639 4 400 5 487	3 476 4 143 5 042	3 759 4 573 5 748	11 948 12 998 13 086	11 297 12 622 13 144	12 427 13 252 13 051	

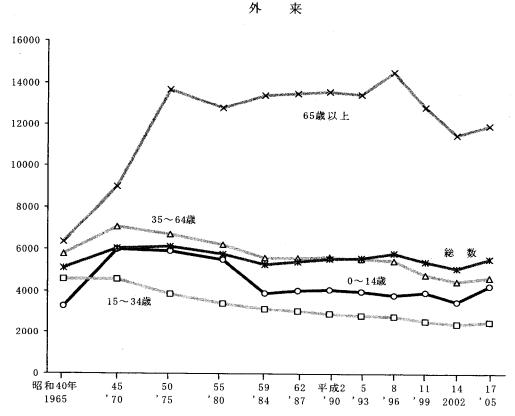
注:1 総数には、年齢不詳を含む。

2 ()内の数値は、平成14年の値である。

年次推移をみると、平成 14 年と比べ、 $0\sim14$ 歳、 $15\sim34$ 歳、 $35\sim64$ 歳及び 65 歳以上の全ての年齢階級で入院は減少しているが、外来は増加している (図 3)。

図3 年齢階級別にみた受療率 (人口10万対) の年次推移





(2) 傷病分類別

傷病分類別にみると、高い順に入院では「V 精神及び行動の障害」が255、「IX 循環器系の疾患」249、「II 新生物」133となっている。外来では「XI 消化器系の疾患」が1,019、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」769、「IX 循環器系の疾患」743となっている。

性別にみると、入院では男は「V 精神及び行動の障害」が 261、「IX 循環器系の疾患」 214、「II 新生物」 153 の順となっており、女は「IX 循環器系の疾患」が 283、「V 精神及び行動の障害」 249、「II 新生物」 114 の順となっている。

また、外来では男は「XI 消化器系の疾患」が 917、「IX 循環器系の疾患」642、「X 呼吸器系の疾患」582 の順となっており、女は「XI 消化器系の疾患」が 1,115、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」958、「IX 循環器系の疾患」840 の順となっている。(表 1 0)

表10 傷病分類別にみた受療率 (人口10万対)

平成17年10月

ſ			· 	7 13-5		平成17年10月			
		傷 病 分 類				<u>院</u> 女	外 来 総数 男 女		
	総	数		1 145	1 080	1 206	5 551	4 815	6 252
I	感染症及び寄生虫症			21	23	20	178	171	185
-		結核	(再掲)	5	6	3	2	3	2
		ウイルス肝炎	(再掲)	4	4	3	62	66	58
П	新生物			133	153	114	160	154	166
		胃の悪性新生物	(再掲)	15	20	10	15	20	11
		大腸の悪性新生物	(再掲)	15	17	13	16	18	14
		肝及び肝内胆管の悪性新生物	(再掲)	9	13	5	6	8	4
		気管、気管支及び肺の悪性新生物	(再掲)	16	23	9	10	13	8
Ш	血液及び造	血器の疾患並びに免疫機構の障害		5	4	5	21	10	31
IV	内分泌,栄養及び代謝疾患			31	29	33	299	253	342
		糖尿病	(再掲)	24	23	25	158	171	147
V	精神及び	「動の障害		255	261	249	176	156	195
		血管性及び詳細不明の認知症	(再掲)	42	28	56	9	6	13
		統合失調症,統合失調症型障害及び妄想性障害	(再掲)	156	170	142	49	53	45
VI	神経系の数			76	66	86	112	96	128
VII	眼及び付属			10	. 9	11	261	189	330
VII		突起の疾患		2	2	- 3	. 90	79	100
IX	循環器系の			249	214	283	743	642	840
		高血圧性疾患	(再掲)	9	4	13	504	394	610
		心疾患(高血圧性のものを除く)	(再掲)	47	42	52	112	114	109
		脳血管疾患	(再掲)	183	156	209	96	100	92
X	呼吸器系の疾患			62	69	54	593	582	604
		喘息	(再掲)	7	7	7	115	120	111
ΧI	消化器系0		(56	62	51	1 019	917	1 115
		歯及び歯の支持組織の疾患	(再掲)	1	1	1	772	690	849
		食道、胃及び十二指腸の疾患	(再掲)	9	10	8	130	114	146
		肝疾患	(再掲)	10	12	8	37	43	32
XΠ	15-01-15-0	を下組織の疾患		7	7	7	209	189	227
XШ		なび結合組織の疾患		54	35	71	769	572	958
XIV	尿路性器 3			36	37	35	197	185	209
XV		を		15	_ :	29	11	<u> </u>	22
		き生した病態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		5	5	5	2	2	$\frac{2}{10}$
XVII		変形及び染色体異常		5	5	4	9	9	10
XVII		実及び異常臨床所見・異常検査所見で これないよの。		19	16	21	60	48	70
37 337		いたいもの			70	110	000	040	000
		写及びその他の外因の影響 で影響なみばよ声回及び200年は、 バスの利用		96	78	113	238	248	228
XX	1 健康状態	上影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 特のはての	(年相)	8	$\frac{4}{0}$	11	405	315	491
		歯の補てつ	(再掲)	0	0	0	209	180	237

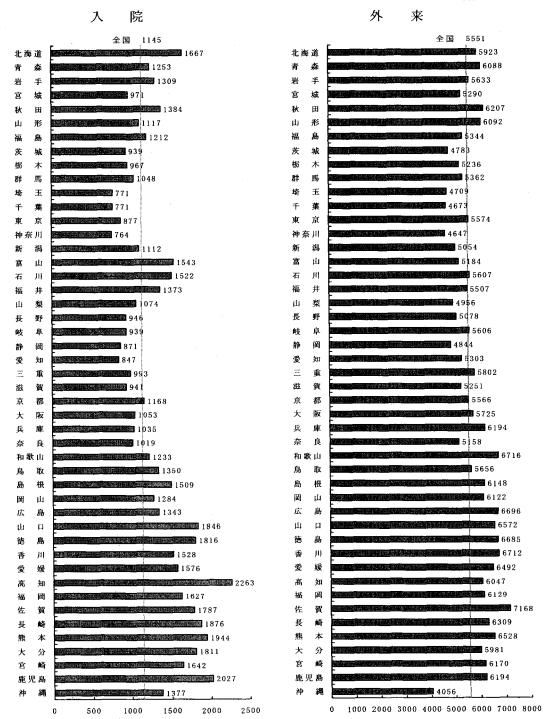
(3) 都道府県別

都道府県(患者住所地)別にみると、入院では、高知が 2,263 と最も高く、次いで鹿児島 2,027、熊本 1,944 となっている。また、最も低いのは神奈川の 764 で、次いで埼玉 771、千葉 771 となっている。

外来では、佐賀が 7,168 と最も高く、次いで和歌山 6,716、香川 6,712 となっている。また、最も低いのは沖縄の 4,056 で、次いで神奈川 4,647、千葉 4,673 となっている。(図 4、統計表 1 1)

図4 都道府県(患者住所地)別にみた受療率(人口10万対)

平成 17年 10月



注:都道府県別受療率は、患者の住所地別に算出したものである。

3 入院患者の状況

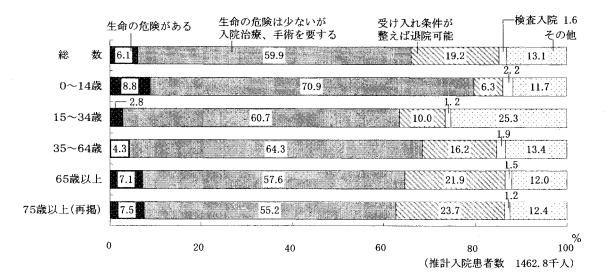
(1) 入院の状況

入院の状況をみると、「生命の危険がある」6.1% (8万9千人)、「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」59.9% (87万7千人)、「受け入れ条件が整えば退院可能」19.2% (28万2千人)、「検査入院」1.6% (2万3千人)となっている。

「受け入れ条件が整えば退院可能」は年齢階級が高くなるに従って増加している。(図5)

図5 年齢階級別にみた入院の状況別推計入院患者数の構成割合

平成 17 年 10 月



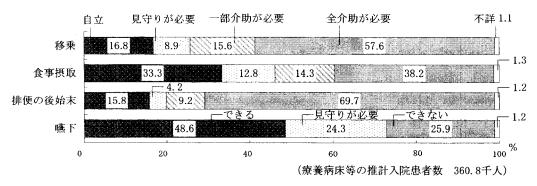
- 注:1 「生命の危険がある」とは、生命の危険がある重篤な患者をいう。
 - 2 「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」には、退院が決定している患者を含む。
 - 3 「受け入れ条件が整えば退院可能」とは、退院は決まっていないが退院可能な状態にある患者をいう。
 - 4 「検査入院」とは、検査のために入院した患者をいい、健康な者に対する一般的検査のための入院患者も含む。
 - 5 「その他」とは、上記以外の場合の入院患者をいう。

(2) 心身の状況 (療養病床等)

療養病床等の入院患者について調査日当日の心身の状況をみると、「移乗」「食事摂取」「排便の後始末」「嚥下」の各項目において「自立」の状態にある者の割合は50%に満たない(図6)。

図6 心身の状況別にみた療養病床等の推計入院患者数の構成割合

平成 17年 10月



- 注:1 療養病床等とは、病院については「老人性認知症疾患療養病棟」及び「療養病床」の患者が対象となり、一般診療所 については「療養病床」の患者が対象となる。
 - 2 「嚥下」の「できる」は、「自立」に相当する。
 - 3 「嚥下」の「できない」は、「全介助が必要」に相当する。